

学校番号	学校名	校長名
45	川崎市立西丸子小学校	筒井 愛子

学校教育目標	今年度の重点目標
自ら考え 正しく判断し 進んで実践する子	①児童の実態に合わせた教育活動の充実 ②一人一人に寄り添う児童理解と支援体制の確立 ③児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上 ④現代的教育課題への対応 ⑤地域に開かれた学校の実現

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<p>①児童の実態に合わせた教育活動の充実 ②行事、教育活動の精選 ・業務の合理化(脱古い慣習の踏襲)</p> <p>◎本校に合った活動の検討と「西丸子スタイル」の確立と発展</p> <p>○校外学習、外部講師の招聘を精選して実施</p> <p>・夢教育21の有効活用(当該学年だけでなく、校内委員会を開催し、全体的な検討)</p>	<p>◎運動会の開催方法を検討した。</p> <p>・「運動会」そのものが、学習指導要領に定められているものではないため、他の教科や活動への影響を減らしながらも、多くの児童が活躍できるように種目を精選した。その結果、保護者の皆様からは、「子どもの成長が感じられた。」「一生懸命な姿に感動した。」などのご意見をいただく一方で、「年々無難に落ち着いている。」「見ごたえに欠け、寂しい。」などの厳しいご意見もいただいた。</p> <p>◎校外学習については、主に学年ごとの検討で決定していたため、他学年と行き先が同じになってしまうこともあった。</p> <p>◎夢教育21(希望する事業について市教委が審査し、妥当性が認められれば、予算が付く制度)に向けて、教務部や学年主任会を中心に進め、希望を募り、2つの事業について審査にエントリーした。その結果、1つは落選してしまいましたが、もう一つ(5年生の米作り)については、来年度、事業として予算化が実現した。</p>	<p>・行事の位置づけや全体のバランスなども含め、「児童の学習活動は、学習指導要領に基づいて行っていること」「約10年ごとに改訂される学習指導要領では、次々に新しいものが入って来るため、変えざるを得ない活動もあること」等を、学校便りや学校説明会等の機会を通してお伝えし、ご理解をいただく。</p> <p>・校外学習の行き先は同じであっても、学年が違えば、目的や目標が異なるため、特に問題はないが、全体の様子の把握や調整等が必要であったことは否めない。次年度は、行事部会が機能するよう、校内体制を整えていく必要がある。</p> <p>・学校の場合、予算要求時期と執行時期とが異なるため、担任にとっては、次年度担任する学年が分からない段階での検討が難しく、これまでは新事業について検討する機会がなかったが、本年度の成功体験を通し、職員が「自分の担当学年」だけでなく、「学校の事業」と捉え、意識する機会としていきたい。</p>
2	<p>◎不登校対策の推進 ・担任⇒CO⇒管理職の確実な情報共有と、保護者との連携で長期化防止。 ○児童、保護者のニーズの理解と実態に合った支援。</p> <p>◎必要に応じた関係諸機関との連携(COが中心)</p> <p>◎風通し良く、安定した学年・学級の経営。 ○専科、級外教員との丁寧な情報交換、情報共有。</p> <p>◎いじめ防止及び人権尊重教育の各学年に応じた取組。 ○「にしまるこのやくそく」に沿った児童指導の徹底。</p>	<p>◎保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、不登校の長期化を防ぐことができた。また、行き渋りが不登校に繋がることを防ぐことができた。</p> <p>・教室や学校に気持ちが向きにくい児童へは、保護者と連絡を密に取り、担任やCOから、参加できそうな活動や場面を紹介し、部分的に参加することができた児童もいた。</p> <p>・朝、児童が「学校生活で起きたことが原因で行き渋っている」というご連絡をいただいた場合は、遅れても、できる限り登校させていただきようお願いし、多くの方に協力いただいた。その結果、教師が直接聞くことで、児童が気持ちを整理することができ、翌日以降のスムーズな登校につながるケースが多くあった。</p> <p>◎担任⇒COの連携がスムーズになり、保護者のニーズに応じて、関係諸機関をご紹介し、連携することができた。</p> <p>◎年度初めに学級経営に関する研修を行い、「安定した学級」の共通理解の機会をもった。</p> <p>・本校では専科制を取り入れて3年目となる。小学校の場合、児童の発達段階との関係もあり、学級担任が主に児童の指導や支援を行っているが、小学校教員不足の現状に、専科制はたいへんありがたい制度である。そのためには、教員同士の連携が不可欠であるが、3年目となる本年度は、たいへんよく連携がとれるようになり、積極的に情報交換、共有を行っていた。</p> <p>◎本年度、校内委員会を開催するほどのいじめ案件はなかったが、小さなものはいくつかあった。小さなものでも、重大ないじめにつながるような案件については、誠実にかつ慎重に対応を行った。</p> <p>・児童指導に関しては、「にしまるこのやくそく」を基本とするが、本年度も時代や状況に合わせて加除訂正を行った。</p>	<p>◎不登校の原因は様々であり、児童によって異なるため、一概には言えないが、何よりも、児童が明るく登校する姿を目指し、今後も校内での連携はもちろん、保護者の皆様のご協力をいただきながら、共に進めていきたい。</p> <p>◎月に2回来校する巡回カウンセラーをはじめ、市内には多くの関係諸機関(無料)があり、相談することは特別なことでも恥ずかしいことでもないということを、保護者に伝えていきたい。</p> <p>◎本年度末にも、学級経営に関する研修を計画している。若手や経験の浅い教員が増える中、不可欠である。計画研修以外にも、教務部や級外教員が積極的に巡視するような体制を整えたい。また、課題を気軽に伝え合える教職員の間関係構築を目指していきたい。</p> <p>◎専科制については、今後も積極的に進め、専科教員の「専門性の高さ」や「複数の目での見守り」など、児童にとってのメリットを増やしていきたい。</p> <p>◎「マニュアル化」が進み過ぎることも懸念されるが、もともになるものは必要である。上記のような職員構成であれば尚更である。いじめや児童指導関係の対応についても、職員間の共通理解、保護者の皆様との共通理解を今後も図ってきたい。</p>

3	<p>③児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上</p> <p>◎「聴く力」「伝える力」の育成</p> <p>◎日常生活における人とかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p>	<p>◎日常生活や授業を通して、「聴く力」「伝える力」を高める。</p> <p>◎国語の授業や日常生活の中で「西丸子の聴く力、伝える力」をのぼしていく。</p> <p>◎教科担任制(算数、体育、理科、音楽、図工等)の推進と授業の質の向上</p> <p>◎担任との情報交換を丁寧に行う。</p> <p>◎特別支援学級の指導体制の再編</p> <p>◎専科による指導を導入し、小集団での学習を推進。</p>	<p>◎日常生活や授業において、児童の「聴く力」「伝える力」を高めることを意識して進めた。</p> <p>◎国語や国語に関連する日常活動等を通して、校内授業研究では、全クラス授業を公開し(教職員のみ)、招聘した講師の指導を受けた。教職員が意識して研究に取り組むことで、児童の「聴く力」「伝える力」を高めることができた。来校した講師からは、特に児童の「伝え合う力」について、高く評価された。</p> <p>◎国語で身につけた力を、児童が他教科でも発揮する場面が多く見られた。</p> <p>◎教育委員会が行う「拡大大要訪問」を希望し、全教科の授業を行い、全教科の指導主事から指導を受けた。</p> <p>◎校内研究では、単一の教科を扱う場合が多いため、これまであまり指導を受ける機会がなかった教科もあるため、教員からは、「たいへん勉強になった。」「明日から生かしていきたい。」「など、前向きな意見が多く出された。</p> <p>◎2で述べたように、担任と専科教師との情報交換、情報共有が、意識的に行われるようになった。</p> <p>◎授業中の児童の様子など、気になった場面も、積極的に伝え合うことで、児童の困り感にも寄り添うことができた。</p> <p>◎特別支援学級の児童数増加に伴い、個別学習だけでなく、小集団による合同学習を徐々に取り入れ、児童同士の学び合いや人間関係の構築などの機会を増やした。</p> <p>◎これまでの自立活動以外に、音楽、図工、道徳などの専科教諭が特別支援学級でも授業を行うことで、担任は余裕をもって児童支援を行うことができた。また、児童にとっては、異学年交流の貴重な機会となった。</p> <p>◎特別支援学級の教員を固定させず、多くの教員が担任することで、児童もいろいろな教員に接する機会ができたことにも、職員全体の理解が深まった。</p>	<p>◎校内研究も拡大大要訪問も、「教師の学び」の大切な機会である。すべての児童にかえるものであるため、今後も授業に関する研究の機会を、組織としてしっかりと確保していきたい。</p> <p>◎前述のように、経験の浅い教員が増加する中、児童に影響することのないよう、研究や研修については、学年や学校全体で共有するよう進めたい。</p> <p>◎教職員の動きが教科担任制に慣れてきたので、今後は、さらに児童の学習面、生活面でのプラスに繋がるよう、計画的な情報共有、情報交換の場を取り入れた。</p> <p>◎個別学習における着実な学びを進めるとともに、今後も小集団での学習や交流の機会を増やしていきたい。</p> <p>◎児童が戸惑わない程度に、教員を入れ替えることで、支援級の児童がいろいろな人と関わる機会を増やすとともに、それぞれの教員の良さを伝えていきたい。</p>
4	<p>④現代的教育課題への対応</p> <p>◎GIGAスクール構想の推進</p> <p>◎働き方改革の推進</p> <p>◎キャリア在り方生き方教育の推進</p>	<p>◎カリキュラムとの関連付けの確認</p> <p>◎タブレット端末を授業の中で積極的に活用(ステップ3への移行)</p> <p>◎教職員自身の業務でもタブレット端末を引き続き活用</p> <p>◎業務の見直しと効率化の推進</p> <p>◎専科制を利用した欠員補充やフォロー体制の工夫</p> <p>◎キャリア在り方生き方教育と授業との関連付けの確認</p> <p>◎市政100周年イベント等への協力と本校の創立70周年に向けた準備</p>	<p>◎どの学年も、意識的に授業の中でGIGA端末を使用するようになった。</p> <p>◎使用の仕方については、学年に任せる形となっていたため、学校全体としての推進については、今一つであった。</p> <p>◎打合せや職員会議では、ペーパーレスが進み、GIGA端末を使用する形に職員も慣れ、効率化が進んでいる。</p> <p>◎学年会⇒学年主任会⇒教務会といったラインについて、教職員の意識が高まり、組織的な運営がスムーズになった。その中で、年に3回の年間反省を段階的に踏んで行い、一人一人の要望が全体に届くようになった。</p> <p>◎担任の休暇の際には、学年だけでなく、教頭、教務主任を中心に時間割の調整や補教の体制を整え、児童の教育活動に影響のないよう進めた。</p> <p>◎6年生の総合的な学習の時間に、コミュニティ・スクール委員の皆様からお話をお聴きする機会を設けた。児童からは、貴重な時間になったとの声が多く聞かれた。</p> <p>◎キャリアノートを利用し、市のキャリア在り方生き方教育に沿って、学年ごとに進めた。</p> <p>◎市制100周年関係では、施設の利用なども含め、多くの場面でイベント等に協力した。児童の活動としては、特別支援学級、低学年児童を中心に、担任の指導のもと、「たねたんご」を作り、市内の緑化活動に貢献した。</p> <p>◎創立70周年記念式典に向け、実行委員長を中心に会議の回数を重ねる中、徐々に形になってきている。</p>	<p>◎本年度のGIGA部会の担当者が、学年ごとの一覧を作成したことで、次年度はこれを利用して、部会を中心に全体を見通した計画を進めていきたい。</p> <p>◎本年度も市内の各校でGIGA端末使用が進む一方で、深刻なトラブルも発生している。ルールや規則を徹底しながら、次年度も慎重に使用する必要がある。</p> <p>◎「効率化」は大切であるが、児童に関わる者に関しては、そぐわない場面もあるため、次年度も「児童」を主語に、組織で十分に検討していきたい。</p> <p>◎本年同様に、教頭、教務主任を中心に時間割の調整や補教の体制を整え、児童の教育活動に影響のないよう進めていく。</p> <p>◎次年度は、創立70周年記念式典も行われるため、地域の皆様との連携を一層深めながら進めていきたい。</p> <p>◎学校の担う部分を確実に進め、今後も地域の皆様とともに進めていきたい。</p>
5	<p>⑤地域に開かれた学校の実現</p> <p>◎コミュニティ・スクールの推進</p> <p>◎学校だより、HP等による教育活動の広報</p> <p>◎DX化に向けた改革の推進</p>	<p>◎コミュニティ・スクールと教育活動のリンク</p> <p>◎児童と触れ合う機会を増やす。</p> <p>◎学校評価アンケートの効果的な活用</p> <p>◎学校だより、HPの内容の充実</p> <p>◎ミマモルメ配信メールの効果的な活用</p> <p>◎保護者や地域の方と対面する場を大切に、学校の教育方針や姿勢を伝えていく。</p> <p>◎DX化へ移行(ペーパーレス化と保護者への周知)</p>	<p>◎2月にコミュニティ・スクールの委員と一般教職員との交流会を行った。</p> <p>◎これまでの協議会への参加は、教務部が中心となっているため、なかなか学級担任の意識まで変えるに至らなかったが、この交流が良い機会となった。</p> <p>◎保護者からのご意見の中で、「すぐに変える必要があり、かつ変更可能なもの」については、毎年すぐに変更するようにしているが、個人的なものについては、難しいところがある。</p> <p>◎学校だよりを通じて、学校の様子、児童の様子を伝えてきた。この話題で、保護者や地域の皆様からお話いただく機会が多かった。</p> <p>◎学校説明会や報告会を通じて、全体に関することを伝えてきた。</p> <p>◎ミマモルメの有効活用やPTAのご協力もあり(スクリーン等)、DX化については、かなり進んでいる。</p>	<p>◎コミュニティ・スクール側も、委員さんだけではなく、学校をサポートするメンバーを集めようとしてくださっている。次年度は、学校側もタイムリーに情報提供しながら、協力を依頼したい。</p> <p>◎今後も、アンケートだけでなく、気軽にご要望をお伝えいただくよう、呼びかけるとともに、そういった機会をできる限り設けるようにしていきたい。</p> <p>◎次年度も、あらゆる機会や方法で、学校の様子や児童の様子について、保護者や地域の皆様にお伝えしていきたい。</p> <p>◎市でもDX化が進んでいるが、学校では、個人情報等の関係で、同じようには進めることができない部分もある。児童の安全を最優先に進めていきたい。</p>

学校関係者の評価 (●課題 ○評価)	学校運営のまとめ
<p>【学校運営協議会】</p> <p>◎運動会について</p> <p>◎学習指導要領との関係も理解するが、伝統種目は残してほしいという意見が多いようだが…。</p> <p>⇒運動会については、これまで決まりがなかったため、流動的だったが、花笠(2年)、ソーラン(6年)は固定することが、本年度の反省で決まった。</p> <p>◎専科制がとても良い。</p> <p>◎児童にとっては、専門性の高い教員から学ぶことができ、担任はその時間に、見守りや他の業務を行うことができる。</p> <p>◎その他</p> <p>◎ミマモルメの配信(登録していただいたこと)や、学校だよりで、学校の様子がよく分かる。</p> <p>◎対応等で困った時は、学校だけで抱えず、相談に乗りたい。</p> <p>【保護者アンケートより】</p> <p>◎GIGAを使った授業(持ち帰りも含め)、共生*共有、外国語活動など、子どもから話を聞くが、様子が分かりにくい。</p> <p>⇒毎年、11月の公開時には、共生*共有関係の授業を行っているが、他の件についても、保護者へのアナウンスをしっかりと行うようにする。</p> <p>◎連合行事の参加、運動会の種目(リレー、ソーランなど)について、検討してほしい。</p> <p>⇒運動会の種目については、前述の内容を、保護者に伝えていく。</p> <p>◎給食時の対面について、見直ししてほしい。</p> <p>⇒「対面」「前向き」は、どちらもメリット、デメリットがあるが、本年度の職員の反省で、折衷案を決めたのでお伝えし、実施していく。</p> <p>◎授業時間を再検討してほしい(水曜6時間など)。</p> <p>⇒来年度は時程を見直しましたので、こちらも説明会等でお伝えします。</p> <p>◎丁寧で細かい、熱心な指導で、子どもは楽しく通っている。</p> <p>◎先生が相談に乗ってくれる。児童のことをよく見てくれている。</p> <p>◎学校が楽しいようで、家で学校の話をよくしてくれる。</p> <p>◎子どもがしっかりとってきた。</p>	<p>◎保護者、地域の皆様のご支援、ご理解とご協力を賜り、無事に1年を終えることができそうです。あらゆる場面でお声かけやご相談をいただいたおかげで、ONE TEAMとして、共に子どもたちを見守り、有意義な教育活動につなげることができました。心より感謝申し上げます。</p> <p>【次年度を目指す方向性】</p> <p>①一人一人に寄り添う児童理解と支援体制の確立</p> <p>②児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上</p> <p>③現代的教育課題への対応</p> <p>④地域に開かれた学校の実現</p> <p>の4本柱の中期目標に対し、それぞれの短期目標、具体的な対策を立て、進めていく。本年度まで①として位置付けてきた「児童の実態に合わせた教育活動の充実」については、学習指導要領の改訂から5年が経過する中、改革が進んだため、この項目を削除し、他の4本柱に吸収する形とする。</p> <p>◎具体的な対策として反映させたいもの</p> <p>◎学校運営組織としては、</p> <p>◎教職員の「部会」を充実させ、教務会や学年会に提案できるよう、時間も確保する。</p> <p>◎若手や経験の浅い教員が増えているため、初任者に限らず、「気づいたときにOJT」を意識し、教員同士、気軽に教え合い、聞き合うことで、西丸子小の教職員のチーム力をさらに高めていく。</p> <p>◎児童理解の面では、引き続き、</p> <p>◎「学校のことは、学校で解決。」を目指し、保護者にもご協力いただき、共に子どもに向かう。</p> <p>◎小さなことでも情報提供やご相談をいただけるよう、保護者にお伝えしていく。</p> <p>◎地域との関わりの方では、</p> <p>◎創立70周年記念式典に向け、実行委員長をはじめ委員の皆様からご意見をいただき共に進める。</p> <p>◎次年度からは、にしこみを中心に、「学校サポーターズ」を募り、教育活動への参加を具体的に進めてくださる方向で、計画中である。</p>